

第2回 江戸川・ふれあい松戸川の水辺空間活用におけるワークショップ

2025年12月1日（月）開催

江戸川・ふれあい松戸川の利用について
参加者同士の意見交換ができました

江戸川・ふれあい松戸川の水辺空間活用検討の第2回目のワークショップが開催されました。今回は、「みんなが楽しめる持続可能な江戸川・松戸川」をテーマに話し合うことを目的としました。

千葉大学による活用案の発表の後、市民の皆様、千葉大学学生とともに、松戸市役所職員が活発な議論を行いました。

日時： 2025年12月1日（月）15:00～17:40

会場： アートスポットまつど

参加者： 44名

開会の挨拶

| 松戸市河川清流課 毛利課長 |



前回のWSでは、ふれあい松戸川の魅力や改善したい点、さらに魅力を高めるための方法について、皆さんから多くのアイデアやご意見をいただきました。本日のWSでも、皆様と一緒に、より魅力的な利用方法を考えていきたいと思っています。皆様と協力し、より良い地域づくりを進めていきたい。

学識経験者・行政関係者の紹介

| 千葉大学 小林名誉教授 |

今回が2回目のワークショップで、次回の仕上げに向けて最も重要になる。学生も案を持っており、市民の方々も積極的な意見を持っているので、今日は大討論会になるのではないかと。思う。良い案ができることを願っている。



団体からの利用紹介

以下の団体より、江戸川・ふれあい松戸川におけるこれまでの取り組みや今後に向けた思いについてご紹介いただきました。

| 江戸川松戸フラワーライン実行委員会 |：榎本委員

1995年に市民・行政・企業の協力で始まり、河川敷を耕して花畑を整備してきた。花を植える活動は誰もが参加しやすく、緩やかな連携で無理なく継続してきた。ふれあい松戸川への愛着を育み、今後も市民が種まきなどで関わる場を大切にしていきたい。



| 江戸川カッパ市実行委員会 |：川田委員

2008年の内閣府事業を契機に“江戸川の交流市”として開始し、後に“かっぱ市”として発展した。樋野口水門周辺で大規模なフリマを開催し、ごみ拾いを入場条件とするなど環境配慮型



のイベントとして展開してきた。新潟県魚沼市との連携など幅広い交流を生み出してきた。

| 日本野鳥の会千葉県 |：橋本副会長

県内各地で探鳥会を実施し、ふれあい松戸川周辺では2011年から65回開催してきた。ふれあい松戸川周辺は約30年育った樹林の多様性が高く、猛禽類を含む多様な野鳥が生息する貴重な生態系が形成されている。都市部にありながら豊かな自然が残る地域として今後の保全を願っている。



千葉大学より活用案の発表

千葉大学の学生によるランドスケーププロジェクト演習の中間発表として、各班から特色ある提案が示されました。

| A班 |

提案『MATSUDO・ACTIVITY・RIVER』

既存の環境を活かしたアクティビティの導入で、自然を活かしつつ賑わいのある河川敷の活用

- ・グラデーションをかけた自然の整備
- ・既存の環境を最大限活かしたアクティビティの設定
- ・整備費用をアクティビティ、施設の収益でまかなう

| B班 |

提案『納屋河岸テラス』

「自然再生 × 市民参加 × レクリエーション」の調和

- ・自然再生と親水空間の質向上（四季を通じた魅力的な河川空間）
- ・多世代が安心して過ごせる“日常の居場所”の形成
- ・イベントや環境教育が展開しやすい場の整備

| C班 |

提案『江戸川ネイチャーグラデーションパーク』

賑わいから学びへ～遊びと学びをつなぐ水辺のグラデーション～

・遊びから学びへと体験が深まっていく“グラデーション”を河川空間全体で創出し、利用者の興味と行動を誘発する河川空間

| D班 |

提案『松戸ネイチャーパーク、松戸自然の川パーク』

- ・広場とボート船着場の設置
- ・異なる景色を見せるゾーニングに基づいた植生管理
- ・歩きたくなる歩道の再整備

グループワーク

今回のグループワークは4つの班に分かれて、千葉大学の発表案をもとに、白地図を囲みながら「みんなが楽しめる持続可能な江戸川・松戸川」について意見交換を行いました。

| 松戸市からのお願い | : 持続可能な水辺空間について

松戸市は財政難の中で水辺空間を維持していくため、季節ごとの利用区分で通年の賑わいを生み、まちと川の回遊性を高め、民間参画により収益を確保し維持管理につなげたい。今回のグループワークで、これらの視点を踏まえた意見やアイデアを期待している。

| テーマ | : 「みんなが楽しめる持続可能な江戸川・松戸川」

まず、各班で学生の提案に込めた思いやねらいを改めて確認し、その内容への理解を深めました。そのうえで、提案をより良いものにするために、どのような視点を追加できるか、現場で実現する際に必要となる工夫は何かといった点について議論を重ねました。最後に、班内で整理した意見や新たに生まれたアイデアを全体としてまとめ上げ、その成果を全体に発表しました。

| A 班 |

BBQ エリアでは、キャンプ会社との連携を考えつつ、市民のファンクラブをつくり、マナー講習や河川の使い方を学べる場と BBQ を結びつけたいという話があった。駅からメインエリアへの動線を活かし、河川だけでなく地域とつながる賑わいをつくりたいという意見もあった。ススキの隠れ家では、松戸川は見えるが江戸川が見えないので、座って江戸川が見える四阿やベンチを整備して、江戸川とふれあえる場所を作りたいという話があった。

| B 班 |

ハード整備では、トイレ、ワンドへのアクセス路、散策路の橋の復旧を優先するという話があり、橋は洪水に備えて取り外し式や浮橋とする案が出た。イベント面では、キッチンカー出店料の工夫や、草刈りと焼き芋大会を組み合わせる案など、収益につながる仕組みをつくるという話があり、サツマイモ栽培の洪水リスクへの懸念も共有された。整備は一度に行わず、協議会が資金を貯め、維持管理に回す方針とし、このエリアの整備は3年目以降に進めたいという意見だった。将来的には子どもが水遊びできるような設計にしたいという話もあった。

| C 班 |

北側・真ん中・土手の3エリアについて議論した。北側はBBQやキャンプを想定したが、風や利用頻度、駐車場整備の採算性など課題があり、収益面も検討が必要との意見があった。真ん中は子どもが遊べる空間づくりやテナントハウス設置を提案し、未利用地を活かして宝探しの場をつくる案も出た。松戸川の歴史を活かしたアユ漁や蒸気船の要素も取り入れたいという声があった。全

体では北を子どもの遊び場、中央の緑地は釣りや環境学習の場として活用し、土手は自転車と歩行者を分離し、駅からの動線改善を図りたいという意見があった。

| D 班 |

松戸駅からの動線と現状の環境を踏まえ、人が集まる水辺空間をテーマに検討した。四阿とトイレのある樋野口を拠点とし、周囲を植生ゾーンとアクティブゾーンに分け、橋や遊歩道の整備で多様な自然観察ができる場を目指した。北側は10人乗りボートを活かした水辺アクティビティの拠点とし、防災や害獣対策にもつなげたいという意見があった。D班としては、美しい風景を大切に、江戸川から松戸の景観を楽しめる舟遊びなど静かな環境の活かし方を重視し、BBQ等は洪水や臭いの課題から慎重にすべきと考えた。

まとめ：リバーフロント研究所

学生の提案や市民の助言を踏まえ、上流側ではBBQや焚火などのアクティビティと、ワンドを活かした自然体験のアイデアが出された。樋野口周辺の南側では自然観察や植生管理を楽しむ静かな利用、北側では木陰空間やボート利用などの案が示された。堤防上では、トイレやテナント設置、安全な通行のためのレーン分けなどの整備案が挙がった。

振り返り

小林名誉教授コメント

坂川とふれあい松戸川、江戸川の水のつながりが重要で、この流れが坂川の生態を支えている。水循環を踏まえた計画が必要。小山揚水機場周辺は景観も良く、屋上などの活用も期待できる。

秋田教授コメント

普通のかわまちづくりとは異なる、新しい方向性が生まれていることが今回の特徴。学生の提案に市民の意見が加わり、質の高い協働ができています。最終発表での成果に期待しています。

松本課長コメント

提案は良いが、一方でどこかで見たことのある題材でもある。重要なのは「なぜ今やられていないのか」を考えること。利用が進まない理由を掘り下げ、その解決を提案に織り込むことで、より説得力のある発表になると思う。

閉会の挨拶

松戸市河川清流課 毛利課長

各班の発表は大変有意義で、松戸川活用に生かしていきたい。今後、住民や団体代表を中心とした協議会を設け、利用計画づくりを進めたい。今後も引き続き協力をお願いしたい。

